



特集

森林環境 多事争論



はじめに

井上真・桑山朗人

「森林環境研究会」年報の編集方式が変わった。前号までは通常の書籍編集と同じやり方だったが、今回からは年間テーマを月刊誌『グリーン・パワー』に12回に分けて連載し、それを年報の特集テーマとして掲載することにした。

新編集方式初回のテーマに設定したのが「森林環境 多事争論」である。多事争論は、福沢諭吉『文明論之概略』に書かれており（「自由の気風は唯（ただ）多事争論の間に在りて存するものと知る可し」）、多くの人が様々な議論を戦わせることを意味する。これは多数派が力を持ちやすい社会の中で一人一人が自由を維持するために不可欠な理念である。

今回の特集では、森林環境研究会のメンバー全員（11名）が、森林に関わる環境・社会・文化に関する通説、あるいは一定の人々が共有している説を取り上げ、専門的な視点から通常とは異なる光を当ててみた。11回の内容はざっくりと「思想・理念」、「ガバナンス」、「エネルギー」、「地域再生」の四つに括ることができる。一人一人が自由に多事争論を試みた結果がこの4テーマになったことは、奇しくも当研究会メンバーの問題意識が現代社会の重要な問題と密接に絡んでいることを示している。

表紙写真：私の集落の神社の遠景＝2017年10月（井上真）

目次写真：左＝エレファントサファリをする観光客（原田一宏）

右＝河床を切り下げてマングローブ林を再生しようと協働する人たち（鎌田磨人）